日本最古の道“山の辺の道”周辺における景観向上を目指して

桜井市農業委員会

1.桜井市の農業の概要

桜井市は奈良盆地の中央東南部に位置し、東西11.9㎞、南北16.4㎞、面積98.92km²。その60%が山間部で奈良県の総面積の2.7%を占めており、古社寺や古墳などをはじめ、数多くの歴史文化資源に恵まれています。

また、桜井市の農業は水田農業を中心として、きゅうりやなす等の野菜栽培やシクラメン等の花卉栽培、みかんや柿等の果樹栽培、山間地域においてはソバ栽培と、多品種にわたります。しかし、その規模は零細であり、経営者は年々老齢化しているなど、農業を取り巻く環境は一層深刻化している現状です。

2.農業委員会の取り組み

桜井市における数多くの文化遺産の中でも、日本最古の道といわれる山の辺の道周辺には、大神神社や、最も古い前方後円墳である箸墓古墳など、万葉の舞台として詠まれた歴史的遺産が多数あり、万葉歌碑巡りとともに現在も多くの方にハイキングコースとして親しまれています。そのため、景観向上の目的から、実践農地を山の辺の道周辺地域で選定し、農業委員会として耕作放棄地解消活動を行いました。

この選定した農地は、背丈以上のささ竹やくず、雑木が繁茂しているような荒廃状況だったため、ハンマーナイフモアやユンボといった重機による再生作業を行い、景観に配慮した自力施工によるオリジナル柵を設置して、ソバやコスモス、ヒマワリを植えました。

ソバについては予想以上に実が出来たので、収穫したものを、市内の農業法人「荒神の里笠そば処」のご協力のもと、脱穀しました。その結果、約65㎏のソバの実を収穫することができました。

再生作業前の様子

再生作業後の様子

収穫したソバの実は、耕作放棄地解消のための景観作物植付用やソバモヤシ栽培用の種として無料配布しました。また、ソバの実の一部を粉末に加工してもらい、ソバ粉を使ったソバボーロを作り、イベントで活動PRを兼ねて、こちらも無料配布しました。

そして、このソバ粉を使った取り組みとしては、市内の農家の方が桜井市のマスコットである“ひみこちゃん”をかたどったそばクッキーを加工品として直売所やおみやげもの屋で販売することになり、6次産業化につなげることができました。

また、同じ圃場で植えたジャガイモについては、一般の方を対象にしたジャガイモ収穫体験を実施しました。農作物の収穫体験を通して、農作物の収穫の楽しみや、安心・安全な取れたて野菜の美味しさをより一層知ってもらうことにより、少しでも多くの方に農業に関心を持ってもらい、将来の担い手確保につながればと期待しています。

現在この圃場は、地元の農業委員を中心としたグループに耕作を引き継ぎましたが、一般の方を対象にしたジャガイモや金ゴマの収穫体験イベントも引き続き実施しています。

農業委員会としては、今後、周辺農地等を含め、一体としての農地の活用や、豊かな地域資源を生かした魅力ある地域作りといった、環境づくりについての取り組みを検討していかなければならないと考えています。